

都市計画道路整備の 今後の方向性について

森田 常夫議員

・質問 羽生市の都市計画道路の現状と問題点はどのようなか。また、未整備のままになっている計画路線の廃止、縮小等の見直しを早急に実施すべきと考えるが、今後の方針について伺いたい。

・答弁(都市整備部長) 現在、都市計画道路は二十四路線、四十五・四三キロメートルが計画決定されている。このうち、整備済み延長は、平成十六年四月一日現在で、十九・五六キロメートル、整備率は四十三・一%となっており、整備中のは七路線、十・四九キロメートルである。

未整備路線は、十五路線、十五・三八キロメートルであり、このうち都市計画が決定されてから三十年以上経過しているものが十一路線である。これまで、本市では広域的な幹線道路や、都市の骨格となる都市計画道路を優先的に整備し、その他の都市計画道路については土地区画整理事業などの市街地整備とあわせて整備をすることを方針としてきた。しかし、未整備路線には住宅や店舗が密集しており、権利者との調整や住民の生活設計の調整などに時間を要すること、補償費に多額の費用がかかること等により、なかなか事業の着手に至らない状況から未整備路線の事業化は当面見合わせることにしている。また、今後は、これらの都市計画道路の縮小・廃止を含めた見直し作業に着手すべきと考えており、県で検討が進められている長期未整備路線の見直し方針の内容を見極め、市の見直し方針を決定していきたいと考えている。



整備中の上西口・中岩瀬線
(都市計画道路)

その他の質問

・市内循環バスの今後の方向性について
・学校給食への「ふぞろい野菜」の導入について

市職員の定数削減と人事評価 システムの構築について

永沼 正人議員

・質問 職員定数を早急に削減すべきと考えるが、見解を伺いたい。また、削減に併せて職員のやる気を引き出す人事評価システムの構築、導入について見解を伺いたい。

・答弁(総務部長) 職員数の削減については、定員適正化計画に基づき、計画的に削減を図ってきたところである。また、昨年十二月に提出された羽生市自主・自立委員会の提言では、市役所がサービスの提供を主としている観点から、判断は難しいとしながらも、職員の年齢構成の高齢化を踏まえて、各年齢層で十

名程度の職員数とし、職員定数四百人程度を目標数値とする提案がなされたところである。今後、事務事業の見直し、電子自治体の推進等による効率化が図られる一方で、地方分権による権限委譲、高齢化社会への対応なども必要であることから、市民サービスの確保を念頭において職員定数の見直しを図っていきたい。現在、国において議論されている公務員制度改革は、能力等級制度を確立することに

より、昇任、評価、給与等について成果主義を取り入れた人事管理制度であり、地方公務員法を含め、法制化に向けた準備が進められているところである。

本市においては、市独自の取り組みとして、課長立候補制度、課長補佐・係長職の昇格試験、課長級以下の職員を対象とした勤務評定を実施し、人事面での登用を図ってきたところである。

今後は、職員の努力を正当に評価するための人事評価と

して、能力と意欲を評価する行動評価、成果を評価する目標管理制度等の導入について検討していきたいと考えている。

その他の質問

・市役所開庁時間の延長について
・彩北広域清掃組合の清掃センターについて
・パソコンのリサイクルについて

・学校等における不審者対策について